

新型コロナウイルス感染症対策のため、展覧会の開催内容に変更が生じる場合があります。

所蔵企画展 ヨーロッパ 画家たちの欧羅巴

期間：3月20日(金・祝)～5月31日(日)

休館日：月曜日（ただし5月4日は開館）、5月7日(木)

初公開コレクション

岸田劉生 《童女洋装》

制作年：1926年 形質：紙本彩色、軸 サイズ：132.2×33.3cm

後期印象派や北方ルネサンスといったヨーロッパ絵画に影響を受けた岸田劉生は、中国宋元画に目を向けるなど、東洋絵画の美も意識していました。30歳を迎え、油絵で表現できない美を日本画の画材に求め、南画へも関心を示します。

黒髪の童女は劉生の娘・麗子です。画面に墨で題名を入れるなど東洋的な作品ですが、西洋人形のような麗子の描写に、最先端の流行が入る銀座に生まれ育った劉生らしい和洋折衷の表現がみられます。1923年の関東大震災後の数年間を京都で過ごしたこともあり、38歳で亡くなった劉生の画業の後半期にはこうした日本画材を用いた作品が多数残されています。



岸田劉生《童女洋装》部分



メナード美術館 アートイベント

詳細はメナード
美術館ホーム
ページをご覧ください！

◆メナード美術サロン 「フランス30年の制作から」

出品作家・鈴木宗樹氏が、フランスでの生活、制作の様子とともに、画家の視点から、本展展示作品個々の魅力にアプローチします。また、展示室で自作についてもお話しいたできます。

日時：3月28日(土) 午後2時～3時30分

講師：鈴木宗樹氏（画家／フランス在住）

会場：メナード美術館 アネックス（別館）

定員：申込先着 60人

※当日の入館券が必要。未就学児の参加はご遠慮ください。

◆メナード美術サロン 「油絵表現の技術からみる近代洋画の魅力」

明治期以降、日本で本格的に描かれた油絵は、ヨーロッパで生まれた絵画技術の模倣だけに終わらない独自の表現が模索されてきました。高橋由一や安井曾太郎、藤島武二など、日本の洋画家の技術的な魅力に焦点をあててご紹介します。

日時：4月18日(土) 午後2時～3時30分

講師：田中善明氏（三重県立美術館学芸普及課長）

会場：メナード美術館 アネックス（別館）

定員：申込先着 60人

※会期中の入館券が必要。未就学児の参加はご遠慮ください。

◆ふらっとアート“撮る”「ご一緒しましょ！麗子と麗子」

麗子が二人！？あなたも《童女洋装》の麗子ちゃんになって一緒に写真を撮りませんか。

日時：会期中開催 ※他のイベント開催時にはご利用いただけません

会場：メナード美術館 アネックス（別館） ※申込不要・会期中の入館券が必要。



メナード美術館 DATA

▶開館時間 午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）

▶休館日 月曜日

▶入館料 一般900円（700円）高大生600円（500円）小中生300円（250円）※（ ）内は20人以上の団体料金

▶ところ 〒485-0041 小牧5-250

▶問合先 ☎75-5787

▶URL <https://museum.menard.co.jp>